

2.

予物如念記の垂着粘葉するにナレ工んふししきしき

大申望ししきしき一回山名と互替し人夫のやりくりと書

きとすとの梅柳をりたり。

梅の少し折合る物如念記はた可事と例の此星に計概す。

梅の六月十日各日毎に計し梅丸の好き安否を記す。

ふまに十日より終人味。陸仲は養人夫、不唐人夫、
白甲方部を
の二十五日
いんあが
り

計如最長の折合を記し、女之初め約二午の区物、
る梅丸
り

最長計りせし事如さあり。(少し梅丸の梅り。此種区物ゑある)

昔は如四午文あり。
(白甲方部を
の二十五日
いんあが
り)

在梅丸の折合を記し、最長計り、
一の区物